

データ連携タスクフォース案

2021-11-05

Digital Agency

目的

- 目的

- データ連携・管理・利活用に関する技術的な検討を実施しガイドブックに取りまとめる。そのガイドブックを通じて、行政や社会全体のデータ設計力、利活用力の底上げを図る。

- タスクフォースの運用ポリシー

- 成果はガイドブックとするなど負荷軽減の工夫を検討

- ・ 各種調整の負荷を減らし改訂を容易にするため、データモデル等のガイドブックは強制せず、利用を推奨

※Githubを使った改正や α 、 β 版の活用など、デジタル庁の技術ドキュメントの公開の方法を整理する必要がある

デジタル庁組織、関連会議とTFの役割分担

- デジタル社会共通機能グループ業務
 - 標準やガイドブック作成支援（各省協議含む）
- データ戦略WG
 - 全体の方針の明確化とマイルストンの定義
- 技術検討会議
 - ガイドブックの技術的正当性の確認
- 技術検討会議データ連携TF
 - ガイドの作成、ディスカッションペーパーの作成等

サブグループ案

- データ班メンバーと希望者で構成

- **エンジニアリングサブグループ**

- ・ アーキテクチャ、データ標準、データ品質等の検討を行う。コード一覧等の基礎データの整理を行う。
 - ・ 成果物
 - › 政府データ標準群 (現状の標準群を再構成)
 - › アーキテクチャガイドブック (ディスカッションペーパー → ガイドブック)
 - › メタデータガイドブック (ディスカッションペーパー → ガイドブック)
 - › データ品質ガイドブック (ベータ版 → 正式版)

- **データマネジメントサブグループ**

- ・ データガバナンスに関するルールの検討を行う。
 - ・ 成果物
 - › データマネジメントガイドブック (環境省版 → 政府版)

サブグループ案

- データ班メンバーと希望者で構成
 - **地理空間データサブグループ**
 - ・ 地理空間に関するデータ標準を検討する
 - ・ 成果物：スマートシティデータ標準等
 - **データ利活用サブグループ**（設置するか未定）
 - ・ データ利活用を促進する方法論の研究や事例の収集をおこなう。
 - ・ 成果物：未定

府省・自治体への成果の展開策

- 基本的にガイドブックを公開し展開を図っていく。
- さらに支援が求められた場合に以下の対応を実施（TFではなく業務という整理にするか今後検討が必要）
 - － 準公共などの重要領域
 - ・ 重点テーマとしてフルコミット
 - › 教育、スマートシティ
 - － 重要だが先方に専門チームがいる領域
 - ・ 設計開発時の随時チェック
 - › ミラサポなど法人関連システム
 - － 一般のシステム
 - ・ 相談対応
 - － ハンズオンの緊急支援が必要なシステム
 - ・ 人の配置、派遣
 - › 土地管理システム
- 上記の他、積極的に外部講演で情報公開

スケジュール

- 2021-11
 - － データ標準化を順次実施
 - － 可能な成果から公開
- 2022-03
 - － データ標準等に関する各ガイドブック更新。
- 2022-06
 - － 新戦略に反映

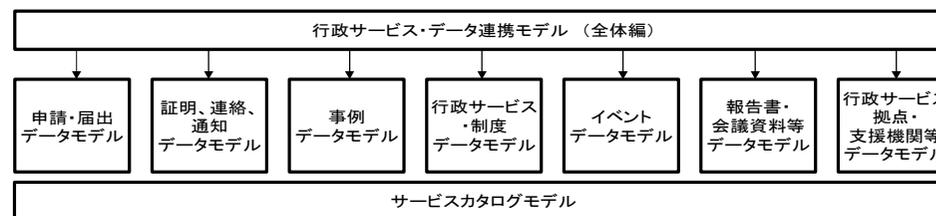
課題

- 業務チームとタスクフォースの役割などを明確化にする必要がある。特に、府省との調整等の事務的作業の支援を誰が担うのか、確定させる必要がある。
- 業務とTFの多重管理を避ける必要がある。
- 業務と重複していない作業（時間外の作業）に対する成果責任を追うことができない
- プロジェクト管理ツールやモデリングツールの整備はTF推進の最低条件

参考：データ標準の現状

- 様々な経緯から作ってきた標準群が混在。ベータ版のモノもある。

2021年6月に公開された追加のデータ標準群（ベータ版）

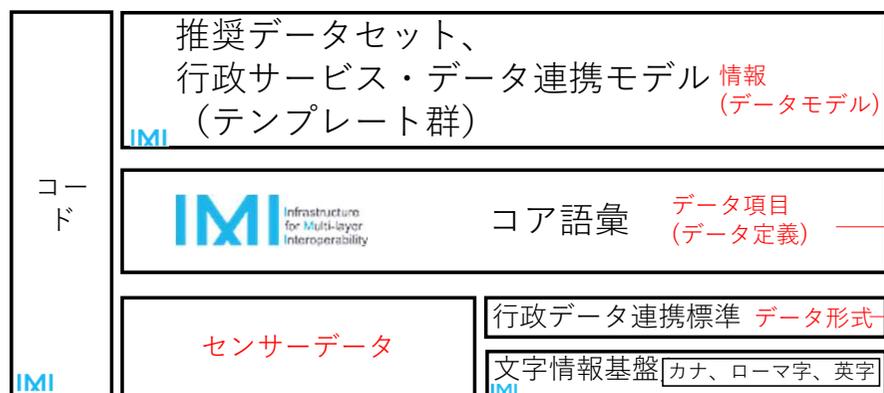


防災用のデータ標準EEI（Essential Element of Information）を整備中

スマートシティ用のデータ標準を検討中

サービス

データ体系



分野横断で活用することでデータ連携が容易になる

標準的なデータ項目を組み合わせることで、標準的なデータモデルができる

日付・時刻、住所、地理座標、電話番号等
例：2018/01/29と2018-01-29が混在し、データ処理が困難

※1 IMI は、デジタルガバメントで推進している共通語彙基盤の略称。国際連携も実施中。